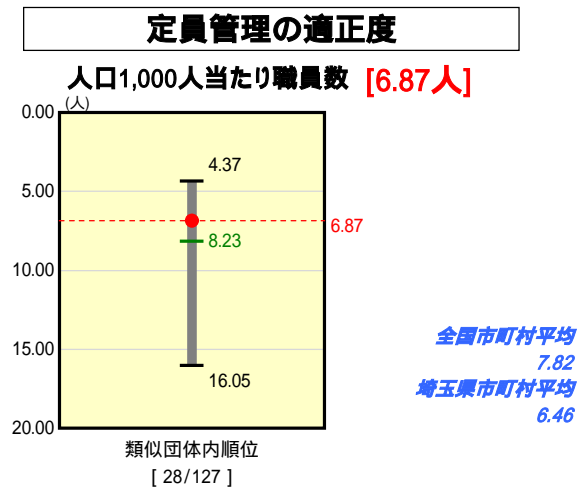
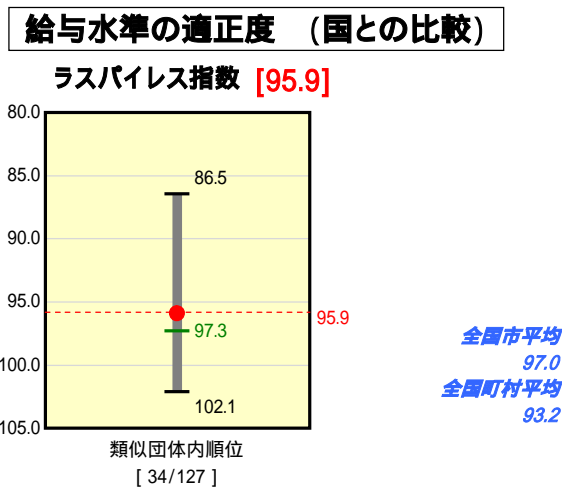
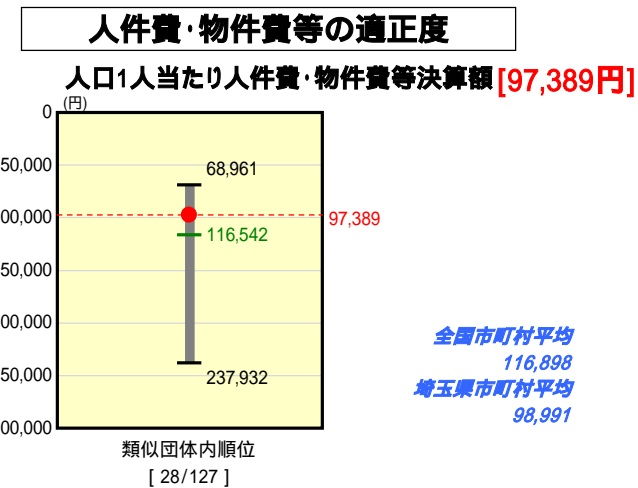
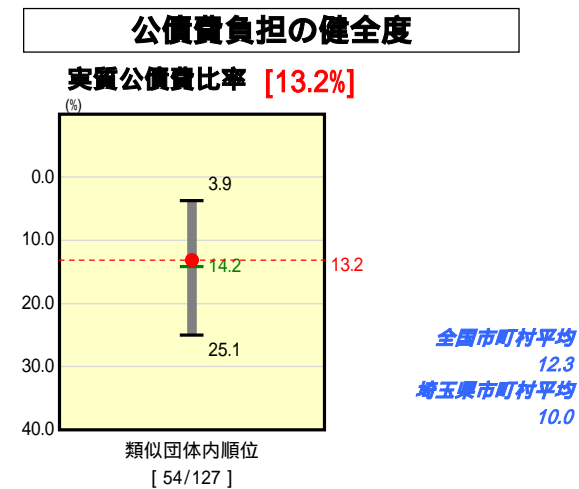
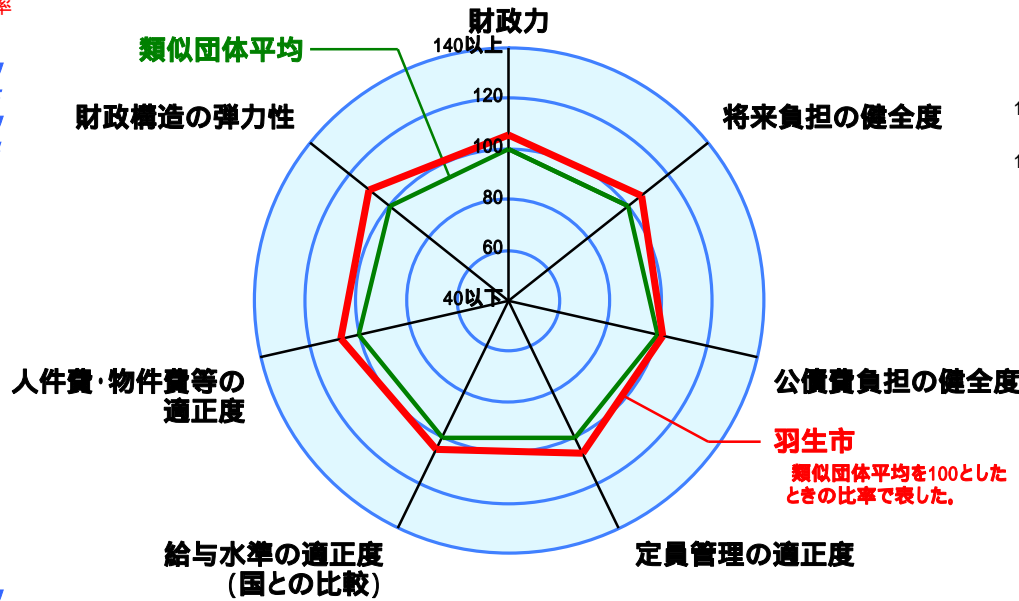
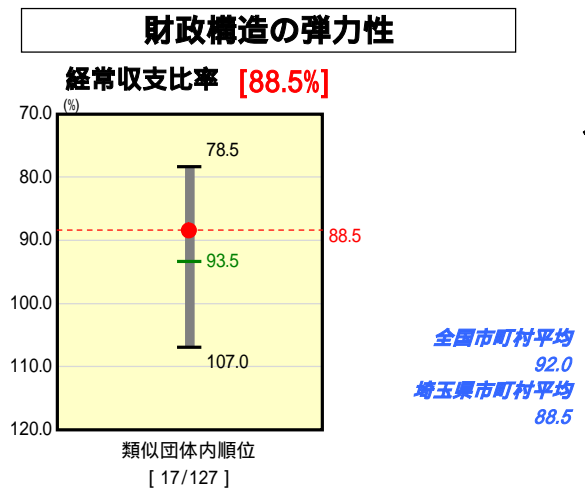
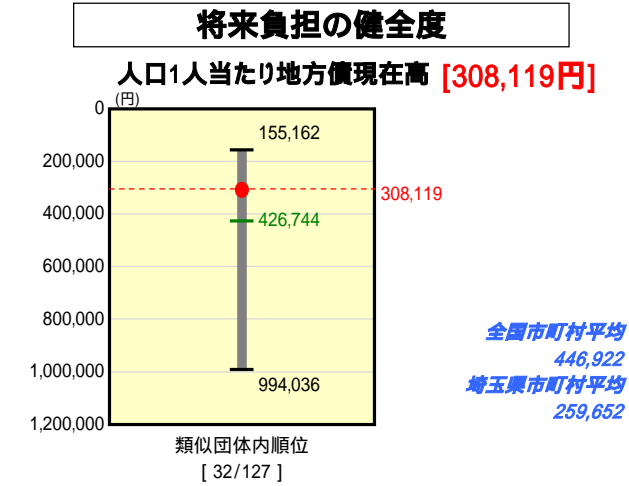
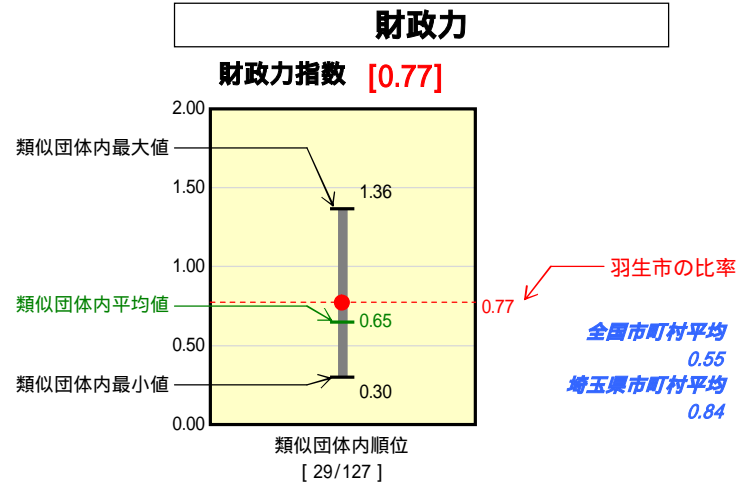


市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

埼玉県 羽生市

人口	56,457人	(H20.3.31現在)
面積	58.55	km ²
歳入総額	16,930,392	千円
歳出総額	15,997,486	千円
実質収支	893,336	千円



類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。

ラスパイレス指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。

分析欄

・**財政力指数**
大規模企業の工場建設や税源移譲等により地方税全体で前年比9.5%の増となり、基準財政収入額が増加したことで財政力指数が上昇した要因の一つとなっている。また、平成15年度より取り組んでいる市税徴収プロジェクトにより、徴収率は5年間で1.7%増加している。しかしながら、県平均を下回っていることから、集中改革プランに基づき、引き続き市税の徴収率向上や使用料・手数料・受益者負担金の見直しを図り、自主財源の確保に努める。

・**経常収支比率**
ここ数年県平均を上回っていたが、平成19年度では県平均と同率となった。しかし、比率としては上昇傾向にあり、財政の弾力化が失われつつある。上昇の原因として、収入面では地方交付税の大幅な減収、支出面では扶助費の経常的な増による影響が大きい。今後も行財政改革を進め経常経費の削減を徹底する。

・**人口1人当たり人件費・物件費等決算額**
全国平均・県平均を下回っている要因として、集中改革プランに基づいた定員管理の効果が挙げられる。住民サービスを低下させること無く、施設の統廃合や管理委託内容の見直しを検討し、更なるコストの低減を図る。

・**ラスパイレス指数**
全国平均を下回っているが、引き続き国の給与と構造に合わせて、給与水準の適正化に努める。

・**人口1人当たり地方債現在高**
県平均を大きく上回っているが、主な要因としては、平成15・16年度に実施した汚泥再生処理センター建設事業(11.4億円)や、平成14年度から17年度に借入れた羽生駅自由通路整備事業(6.4億円)等である。財政健全化計画に基づき償還元金よりも市債発行額を低くし、残高の減少に努める。

・**実質公債費比率**
全国平均・県平均を上回っているが、緊急度・住民ニーズを的確に把握した事業の選択により、今後控えている大規模な事業計画の整理・縮小を図るなど、起債依存型の事業実施の見直しを図る。

・**人口1,000人当たり職員数**
集中改革プランに基づき、退職勧奨制度の継続・定年退職の不補充等により、県平均レベルまで下がるよう適切な定員管理に努める。